

デーリー東北  
2021年(令和3年)4月24日(土曜日) (16)

# "可能性への入り口" 思い込め



シンボルマークについて説明する坂本禎智学長

## シンボルマーク 八工大が初めて制定

八戸

来年1月に創立50周年を迎える八戸工業大(坂本禎智学長)が、初めてシンボルマークを制定した。今後、看板や

印刷物などあらゆる場面での使用を想定しており、同大の教育理念などが込められた新たなイメージとして、学外への浸透を図る。

シンボルマーク制定は、同

大の創立50周年記念事業の一環。昨年11、12月にデザインを公募し、全国の10〜80代から620点の応募があった。分かりやすさや審美性などの選考基準を踏まえて学内審査を行い、絞り込んだ9作品から同大の学生や教職員、卒業生らがウェブ投票を行うなどして決定した。

制作者は、有名企業のシンボルマークなどを数多く手掛ける村上正剛さん(東京都在住)。同大によると、8枚の四角形を扉に見立て、可能性への入り口、地域に開かれた大学を目指すという思いが込められている。また、青2色のコンビネーションで、設置学部である工学とデザインの融合や、大学と地域の連携などを表している。

同大は23日、記者会見を行いシンボルマークを披露した。坂本学長は、マーク制定の経緯について「創立からの50年を一つのステップとし、今後も社会貢献などに努めていきたい」という大学の決意を表している」と話した。

(金濱千優希)

※この記事・写真等は、デーリー東北新聞社の承諾を得て転載しています。